

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 津商業高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		商業教育を通じて、「創造力」・「協調性」・「知恵」を持った人材を育成することで、地域社会に貢献できる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの可能性に挑戦し続けるとともに自ら学び、自ら考え行動し自立している</li> <li>・忍耐力、創造力、協調性を身につけ、新たな課題の解決に積極的に取り組んでいる</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す学校像の実現に向け、様々な場面において、情報共有と意思疎通を図りながら育みたい生徒の姿を目的として、互いに協力し、創意工夫が図れる教職員。</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; 学ぶ喜びの実感・進路希望の実現・部活動を含め充実した高校生活を送ることを期待している。</p> <p>&lt;保護者&gt; 子どもの安心安全な学校生活。学校生活全体を通じた人間力の育成及び進路希望の実現。</p> <p>&lt;地域&gt; 学校の教育力を地域に提供し、地域の活性化に貢献してほしい。 地域の教育力を学校に活用し、生徒が社会に貢献する意欲や態度を育成して欲しい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;家庭&gt; 学校情報の提供 学校行事等への参加機会の増加</p> <p>&lt;中学校&gt; 卒業生の様子、入試情報などを知りたい。</p> <p>&lt;地域企業・事業所&gt; 地域産業の担い手としての人材の育成</p>	<p>&lt;家庭&gt; 本校教育活動への理解と連携協力</p> <p>&lt;中学校&gt; 基礎学力の定着。効果的な指導を進めるために、個々の生徒の情報共有</p> <p>&lt;地域企業・事業所&gt; 生徒の生きた学習の場の確保に連携協力して欲しい。</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○地域や、中学生に対して津商の様子・魅力がすぐに伝わるようSNS等を用いたさらなる発信。</p> <p>○基礎学力の充実とともにディスカッションやプレゼンができる力を授業で身につけさせていく取組を進める。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校周辺地域からの入学者が多い。資格取得や部活動への積極的な参加の意思を持った生徒が多い。近年は、進学志望者も増加しており就職志望と進学志望の両面での支援体制の充実が急務であるとともに、学力向上に向けたカリキュラムの検討や授業改善等について更なる検討を進める必要がある。</li> </ul>	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校外への本校の取り組みの情報発信の方法を工夫する必要がある。</li> <li>・授業内容の工夫改善をすすめ、提供する授業内容を充実させるとともに、学力向上に向けた教員間及び授業間の連携をすすめる。</li> <li>・組織の業務内容の整理、目的を明確にして重点的に取り組むべき事を洗い直し、総勤務時間の縮減に向けて取り組む</li> </ul>	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自ら学び、自ら考える取り組みとなるような課題の設定や学習活動を推進する。</li> <li>基礎学力の充実をもとに専門的知識や技能の取得をより一層推進するために、各教科間の連携による取り組みを進める。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の教育理念や教育内容、教育実践内容等の商業教育の魅力を中学校をはじめとして広く地域社会にPRし、理解を求めていく取り組みを進める。</li> <li>地域社会と学校との間で「人」や「情報」の交流を増やし、地域社会からの信頼と協力を得る中で、「生きた学習」の機会を増やせるよう取り組みを進める。</li> <li>目的の明確化および共有を進め、組織の業務の見直しを進めることで過重労働の削減に取り組む</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)外部教育力を積極的に利用し、より具体的な内容や新しい情報を用いた授業を行い意欲を引き出す授業を実施する <b>【活動指標】</b> 生徒の学校生活アンケートの実施 <b>【成果指標】</b> 学習する楽しさが増したとする生徒の割合70%	外部教育力として観光業に携わる関係者の授業を行い新たに観光とビジネスという視点で授業を進めた。  50%(平成29年度48%)で微増した。	◎
キャリア教育の充実	(1)進路ガイダンスの充実 望ましい進路選択を行えるよう、内容を検討する。 (2)インターンシップの充実 インターンシップの目的を再度洗い直すとともに、生徒が主体的に進められるよう取り組む	ガイダンスの在り方、実施の時期等の検討を進めることができ、次年度の計画に反映する ・新3年生への早期からのガイダンス実施 ・進路の手引きの全面改定を行った ・ガイダンスの内容の全面見直し ・インターンシップについては、自己開拓の拡大による主体的な取組をすすめる	
心を育む教育の取り組み	(1)命を大切にすることを育む教育の充実 自らの考え方、捉え方を見つめ直すことで、いじめ防止や命を大切にする態度の育成。 教科指導と連動させながら取り組みを進める。 <b>【成果指標】</b> 生徒のアンケート等による成果と課題の検証	・人権フィールドワークにより、知らなかった事等を把握する中で事実を捉え自らの考えを整理する事を行いあわせて命の大切さを理解する事ができた。 ・「課題研究」において津商業生徒の強み弱みをアンケートにより状況が把握できた。	

## 改善課題

評価手法の研究においては、評価方法についての取組が進み、課題改善も行うことができたが、全ての教科科目において実施にはいたっていない。今後は、新学習指導要領に対する学習指導内容の見直しと併せて準備を進める必要がある・また、キャリア教育においても、生徒の進路選択の状況を把握し、従来の取組の更なるプッシュアップを進めて行く必要がある。

### (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の 取り組み	(1)校外の研修会・講習会等への計画的な参加 (2)教員相互の授業研究 【活動指標】(1)6名以上 (2)年2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国商業教育講習会(情報の部)1名派遣</li> <li>・全国商業教育講習会(会計の部)1名派遣</li> <li>・マーケティング指導者育成講座3名派遣</li> <li>・専門学校情報講習会1名派遣</li> <li>・校内授業研究週間において、全職員の授業見学実施。</li> <li>・中学校への出前授業 6回実施</li> </ul>	
情報提供	(1)授業、学校行事等の公開 (2)ホームページ、Instagram等の積極的な活用 【活動指標】年3回以上 【成果指標】参加者アンケート等での検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開(保護者、中学生及びその保護者288名の参加)</li> </ul>	
地域との連携	(1)地域行事等への参加 【活動指標】 授業での校外学習、部活動を含むすべての取り組みで、実施5回以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新町フェスタへの参加</li> <li>・匠プロジェクト地域イベント4回参加</li> <li>・観音寺保育園夏祭り、運動会支援</li> <li>・津ドライビングスクールイベント参加</li> <li>・吹奏楽部地域イベント3回参加</li> </ul>	◎
総勤務時間の 縮減	(1)年次有給休暇取得日数の増加 (2)時間外労働時間 15%削減 (3)夏季休暇及び元気・回復休暇の完全取得  (4)月1回の定時退校日実施 (5)部活動の週1回休養日の設定 (6)夏季休業中の閉校日の設定(1日以上) 【成果指標】 (1)昨年度取得日数より1日以上増(80%以上) (4)定時退校日設定100%、退校率95% (5)休養日設定・実施率100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)1人あたりの平均取得日数、2.0日減</li> <li>(2)平成29年度実績と同数値</li> <li>(3)夏季休暇完全取得 71%</li> <li style="padding-left: 20px;">元気回復休暇(1日以上) 69%</li> <li>(4)定時退校率 98%</li> <li>(5)実施率 100%</li> <li>(6)閉校日実施日数 2日</li> <li>(1)増加率33%</li> <li>(4)定時退校日の実施100%</li> <li>(5)休養日設定100%</li> </ul>	※

## 改善課題

検定やクラブ活動等で週休日に働くことが頻繁であることから職員相互が時間を見つけて平日に休養が取得しやすいような職場環境を維持するとともに教職員の健康じょうたいの把握にも努める。

### 5 学校関係者評価

明らかになった  
改善課題と次へ  
の取組方向

- 生徒個々のコミュニケーション能力は高いように思えるが、さらにレベルアップするためには、自ら考える力を身につけさせることが大きな課題である。
- 津商業は部活動が盛んであるというイメージがあるが、勉強の取組や進路についてアピールしていくことが大切である。

### 6 次年度に向けた改善策

教育活動につ  
いての改善策

商業教育活動は取組のレベルは年々向上しており充実してきている。今後さらに生徒自身が自ら考え主体的に行動できる力を身につけられるよう、各教科間の連携を強化し、すべての教科において考える力を育成する取り組みをすすめる。

学校運営につ  
いての改善策

- ・教職員の研修機会を充実させ指導力向上に取り組み、全体の更なる授業力向上に取り組む。
- ・総勤務時間の縮減について、学校全体で協議の場を持ち教職員の意識向上に勤めるとともに、部活動の指導方法等についても方策を検討し、改善を図れるように努力していく。